

② 後期基本計画・次期総合戦略策定に向けて

1 第1回有識者会議 主な意見と対応方針

主要意見		今後の対応方針
テーマ	内容	
前期戦略の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 目標指標の未達成項目が多いが、特に重点的に達成すべき項目を決めるべきではないか。 達成できなかった原因を分析し、それを踏まえて次に向けた取り組みをする必要があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 次期戦略では、人口減少対策に繋がる施策を重視する。また、財政状況を考慮して、力を入れるべき分野を絞って施策を実施する。 未達要因の分析を踏まえて施策を検討する。
人口減少対策について	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少を止める手はないため、なだらかな人口減少を目指していくべきだと思う。 若年層に高梁市に来てもらうためにも、高梁市の強みを活かしていくことが重要だと考える。 女性に多く高梁市に残ってもらうために、働く場所があれば良いのではなく、働いていて自分がやりがいを感じられる、女性が活躍できる職場であることが重要である。 結婚をすれば、第一子、第二子を出産する可能性はあり、婚姻率を高めるために広い視点から原因を検討することが重要だと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 人口推計の見直しを行う。 高梁市の強みをアンケート分析等から導き出した上で、施策を検討する。 未婚率が低い要因を分析するとともに、女性の転出抑制・転入促進により男女の人口バランスを改善し、未婚率を下げるための施策を検討する。
目標設定と進捗管理について	<ul style="list-style-type: none"> KPIの設定方法についてもしっかりと検討していく必要があるのではないか 見直し、PDCAを回すことをもっと頻度を高めて実施していくべきなのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 施策の進捗管理手法については、総合戦略の中で明示する。
次期総合戦略の策定について	<ul style="list-style-type: none"> 主観的な幸福度を向上させるために、客観的なデータに基づいて施策の優先順位を決めていくことを、高梁市版で実施することは重要ではないか。 「後期基本計画（次期総合戦略）で重視する考え方」について、どのように「健幸都市たかはし」に繋がるのかを明示する必要があるのではないか。 有識者会議に参加している市民は限られており、基本計画策定においてどれだけの市民の声を聞いているのかが重要であると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 高梁市として幸福度をどのように定義するか、検討する。 市民アンケートを活用して、市民の声を施策に反映する。

2 – (1) 後期基本計画で目指す高梁市の姿

○高梁市総合計画（2021年→2030年）の基本構想として示されている都市像「健幸都市たかはし」、まちづくりの基本理念「つながり“から創る心豊かなまちづくり」を踏襲しつつ、昨今の社会情勢や市の現状を踏まえて、政策の見直しに繋げていきます。

高梁市 総合計画（2021年→2030年）基本構想

《都市像》 健幸都市たかはし

人と人とのつながりを大切にともに支え合い、豊かな自然や文化を守りながら、地域への愛着と誇りを育み、住民が健やかで幸せに暮らし続けられる高梁市の実現をめざす

《まちづくりの基本理念》 “つながり“から創る心豊かなまちづくり

“つながり”とは、家族や地域とのつながりや、交流によって生まれる市内外の人と人とのつながり、自然や歴史、文化等とのつながりなど、私たちを取り巻く様々な“つながり”を意味しています。人の健康に最も影響を与えるのは、「社会とのつながり」であると言われています。また、郷土への愛着や誇りを醸成していくためには、自然や歴史、文化等とのつながりを更に深めていく必要があります。「健幸都市」の実現をめざす上で、こういった様々な“つながり”を大切にし、郷土愛を育みながら、心豊かに暮らせるまちづくりを進めます。

社会情勢踏まえた後期基本計画の視点（案）

【視点1】

人口減少下での市民の
生活の“質”的向上
・幸福度の高いまちづくり

【視点2】

厳しい市の財政状況
・厳しい財政状況下での選
択と集中

【視点3】

人口減少対策に対する国新たな指針（地方創生2.0）
①「若者・女性」が暮らしやすいまちづくり
②関係人口を活かした都市と地方の支え合い
③自治体の区域を超えた官民連携での取り組み
④生成AI・デジタル活用等の新時代の技術活用 等

政策・施策内容の見直しへ

内閣府の示す「地方創生2.0」（令和7年6月 閣議決定）

日本列島改造論／地方創生1.0／地方創生2.0の比較表

	日本列島改造論	地方創生1.0 (まち・ひと・しごと創生総合戦略)	地方創生2.0 (基本構想)
年代	1972年～	2015年～	2025年～
各年の状況	人口と増減:1億760万人 (+129万人) 出生数: 約204万人	人口と増減:1億2,709万人(▲14万人) 出生数: 約100万人	人口と増減:1億2,359万人(▲60万人) ※概算値 出生数:(2024年約68万人)
目指すもの ・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全国一律の経済成長と均衡ある国土の発展 ・過密と過疎の同時解消 ・国民の生活水準の向上 ・GDP向上(1985年に304兆円(年率10%の成長)) ・就業構造の転換 (1次→2次・3次産業へ) 	<p>少子高齢化への対応、人口の減少に歯止め、東京圏への人口の過度の集中を是正、地域環境確保による活力ある日本社会を維持(まち・ひと・しごと創生法第1条)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少・地域経済縮小の克服 ・中長期展望として「2060年に1億人程度を維持」を提示し、人口減少を押しとどめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口規模が縮小しても経済を成長させ、地方を元気にする ・少子化対策により今後の人口減少のペースが緩まるとしても、当面の人口減少が続くことを正面から受け止め、適応策を講じる ・若者や女性にも選ばれる地方を創る
	<ul style="list-style-type: none"> ・分野ごとに目標年度及び数値を設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合戦略の4つの柱 ・人口減少を押しとどめる前提での施策展開 <ol style="list-style-type: none"> 1. 地方に仕事をつくり、安心して働けるようにする ➢ 地方での雇用の創出が中心 2. 地方への新しいひとの流れをつくる ➢ 東京から地方への移住施策が中心 3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる 4. 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守る とともに、地域と地域を連携する ➢ 人口減少を押しとどめる前提での課題解決・対応策 ➢ 地域連携は行政・生活サービス維持の観点 <ul style="list-style-type: none"> ・施策の進捗管理のためのKPIを設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本構想の政策パッケージの5本柱 ・人口減少が進む中でも経済成長、地域社会を維持 <ol style="list-style-type: none"> 1. 安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生 ➢ 「若者・女性」への着目、人口減少が進む中でも社会を維持 2. 稼ぐ力を高め、付加価値創出型の新しい地方経済の創生 ➢ 人口減少局面でも稼げる地方を創る(新結合による高付加価値化) 3. 人や企業の地方分散 ➢ 関係人口を活かした都市と地方の支え合い 4. 新時代のインフラ整備とAI・デジタル等の新技術の徹底活用 ➢ 生成AI活用や、半導体産業・データセンターの地方分散 5. 広域リージョン連携 ➢ 自治体の区域を超えた経済の観点でも官民連携のプロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ・10年後に目指す社会の姿を量的に提示 ・進捗管理の施策目標(KPI)は年末の総合戦略で設定

○ウェルビーイングの概要

■ウェルビーイングとは？

○身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいう。

- ・短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む。
- ・多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるだけでなく、個人を取り巻く場や地域、社会が、幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む。

■政策とウェルビーイングの関係

○これまで国全体の政策は、人口の増加を前提としたGDPや所得向上など経済的な指標を重視してきた傾向にあった。しかし、国全体で長期的に経済成長が鈍化しており、人口減少が急速に進む昨今、「経済成長＝人々の幸せ」の価値観の転換が迫られている。

○人々の生活実感（幸福感・安心・つながり・健康・誇りなど）を反映する指標が求められており、その一つがウェルビーイング（well-being）である。



都市像「健幸都市たかはし」が求めるもの

○ウェルビーイングは「幸福度」や「満足度」を重視するため、政策立案のプロセスでも住民参加型・共創型が求められる。住民の声や感情データを収集し、政策に反映することで、住民が幸福感や満足感を感じられる政策につながる。

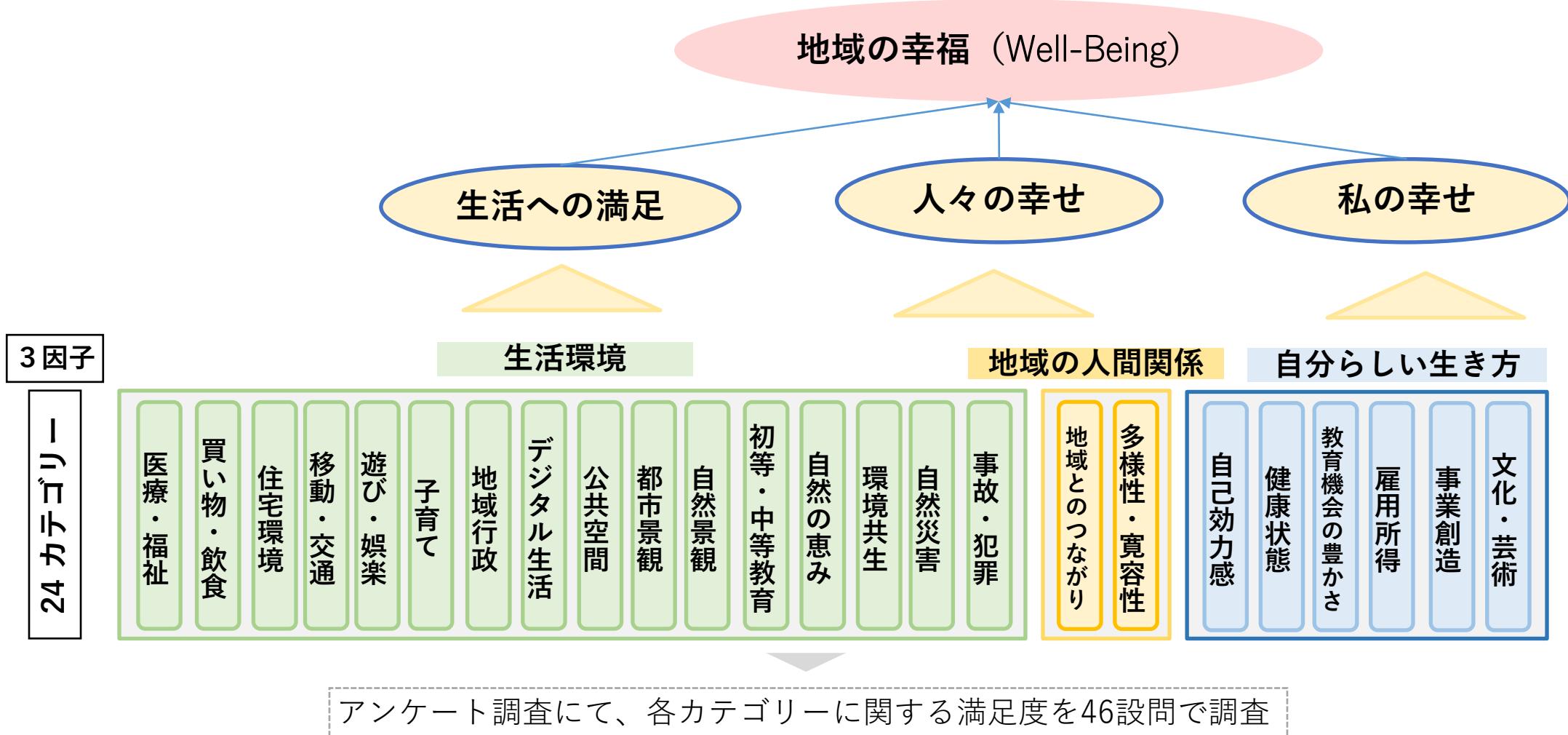
2- (2) 後期基本計画での重要視点 【視点②】 幸福度の高いまちづくり

■デジタル庁が提言するウェルビーイング指標

○暮らしや幸福感 (Well-Being) を数値化・可視化し、自治体のまちづくりや政策立案に役立てる。

○3つの因子「生活環境」が生活への満足、「地域の人間関係」が人々の幸せ、「自分らしい生き方」が私の幸せへとつながり、ひいては地域全体としての幸福感向上につながる。

○どのカテゴリーに力を入れれば、幸福感の向上へ繋がっていくかを、市民アンケートからひも解く。



(1) 令和6年度 市民アンケートでの調査内容

- 幸福度・生活満足度を測る4つの質問と、3つの因子（計24カテゴリー）に関する46の質問を設定
- 幸福度に寄与する各種行政サービス、暮らしやすさの満足度などを分析し、市民の幸福度の向上に向けて検討

幸福度・生活満足度を測る4つの設問

幸福度について

次のことについて、あなたの主観で、当てはまる番号ひとつに○印をつけてください。

問15 現在、あなたはどの程度幸せですか。
「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれかの数字を1つだけお答えください。

とても 幸せ										とても 不幸
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0

問16 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか。
「とても満足」を10点、「とても不満足」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれかの数字を1つだけお答えください。

とても 満足										とても 不満足
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0

問17 あなたの町内（集落）の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか。
「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として、いずれかの数字を1つだけお答えください。ここでは自分の同居家族を除いて考えてください。

とても 幸せ										とても 不幸
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0

3つの因子に関する計46個の設問（一部のみ抜粋）

	非常にあてはまる	ある程度あてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
1 暮らしている地域は、医療機関が充実している	54	44	34	24	14
2 私の暮らしている地域では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい	54	44	34	24	14
3 暮らしている地域は、日常の買い物にまったく不便がない	54	44	34	24	14
4 私の暮らしている地域では、飲食を楽しめる場所が充実している	54	44	34	24	14
5 自宅には、心地のいい居場所がある	54	44	34	24	14
6 【逆】自宅の近辺では、騒音に悩まされている	54	44	34	24	14
7 私の暮らしている地域では、適度な費用で住居を確保できる	54	44	34	24	14
8 私の暮らしている地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	54	44	34	24	14
9 私の暮らしている地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	54	44	34	24	14
10 私の暮らしている地域では、子育て支援・補助が手厚い	54	44	34	24	14
11 私の暮らしている地域では、子どもたちがいきいきと暮らせる	54	44	34	24	14
12 私の暮らしている地域では、教育環境（小中高校）が整っている	54	44	34	24	14

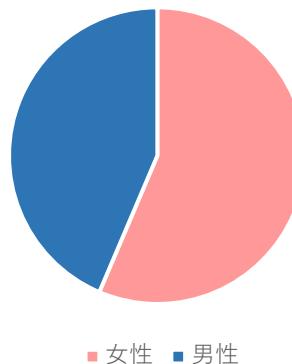
《調査対象、標本数及び回収率》

対象	高梁市在住の20歳以上の市民を無作為抽出
配布数	1,000件
有効回答数	385件
回収率	38.5%

(2) 令和6年度 高梁市 市民アンケート調査 回答者基本回答データ

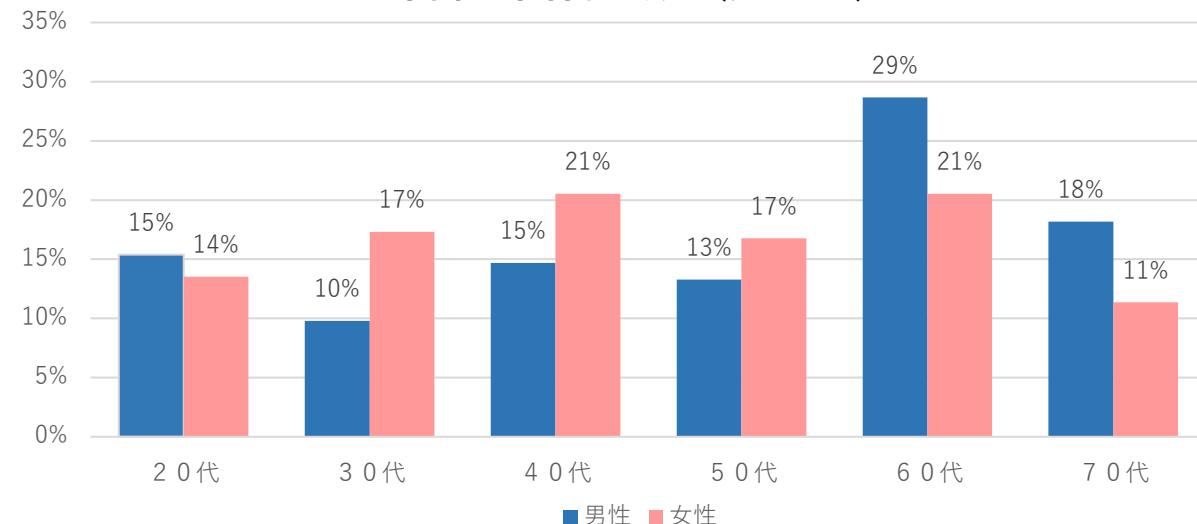
- ・性別はほぼ均衡しているが、女性がやや多い。
- ・年代は中高年層（40～60代）が多く、特に60代が最多。
- ・男女で年代構成に差があり、男性は高齢層、女性は中年層が多い。

■回答者性別：男性143名 女性185名

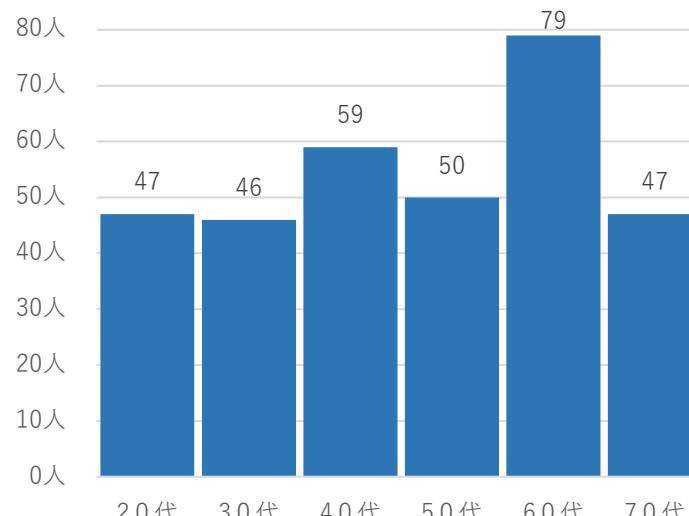


※回答者数は無効回答者57名を除外し、有効回答数328名にて各種分析を実施している。

■年齢別回答人数（男女別）



■年齢別回答人数



2—(2) 後期基本計画での重要視点 【視点②】 幸福度の高いまちづくり

(3) 高梁市 市民の幸福度の現状 (R6 高梁市市民アンケート結果概要)

«主観的幸福感» 設問: 現在、あなたはどの程度幸せを感じるか。 (10段階評価)

【1. 全体傾向】

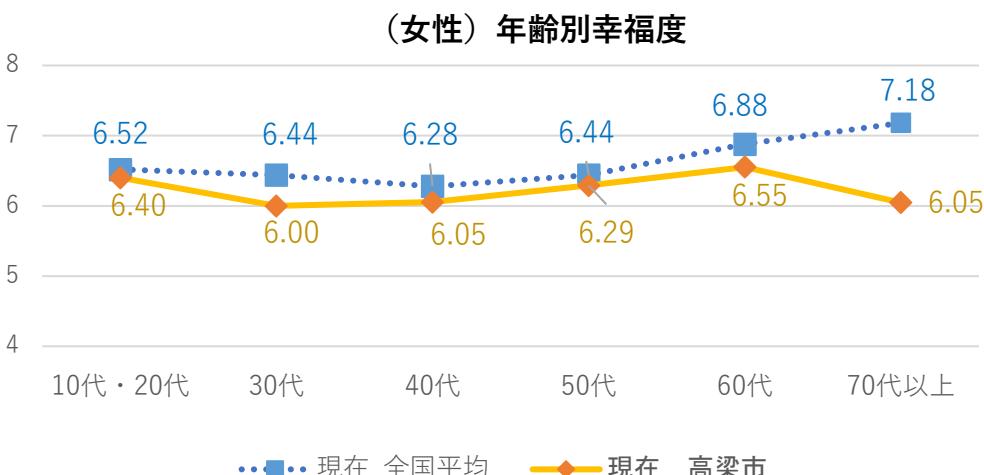
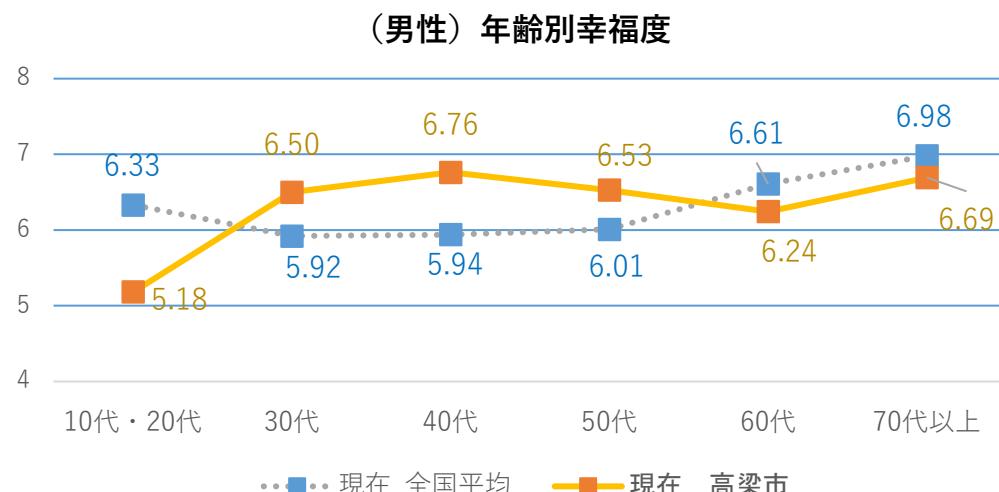
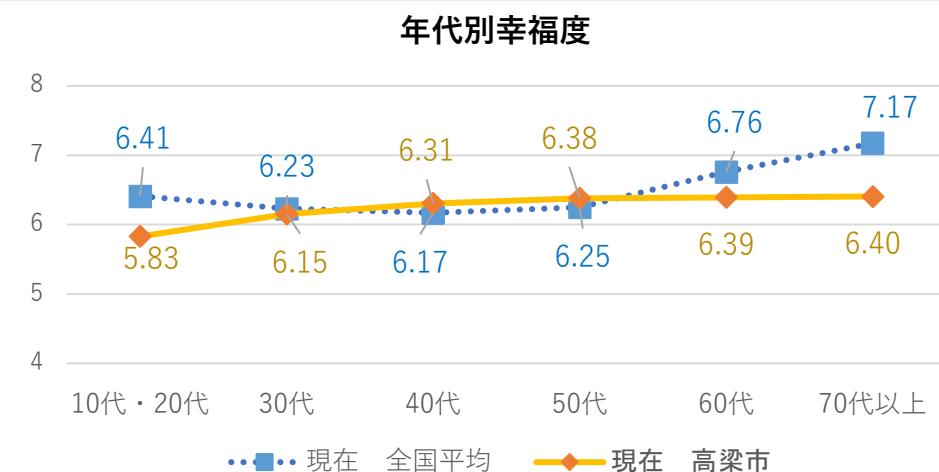
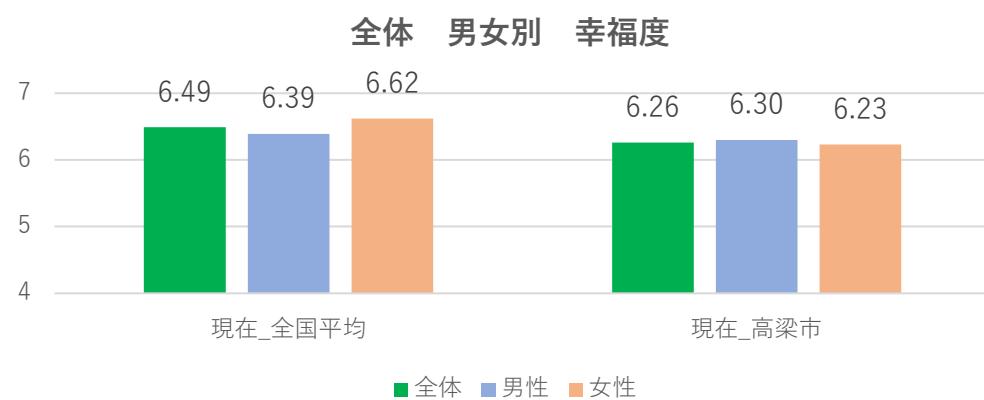
- ・全国平均 (6.49) に対して高梁市 (6.26)。

【2. 年代別の傾向】

- ・20代が特に低水準/60代以上も全国より低い

【3. 性別の傾向】

(男性) 20代/60代以上が低い傾向。 (女性) 全年代全国平均値を下回る。



2—(2) 後期基本計画での重要視点 【視点②】 幸福度の高いまちづくり

(3) 高梁市 市民の幸福度の現状 (R6 高梁市市民アンケート結果概要)

«主観的幸福感» 設問: 5年後、あなたはどの程度幸せを感じているか。 (10段階評価)

【1. 全体傾向】

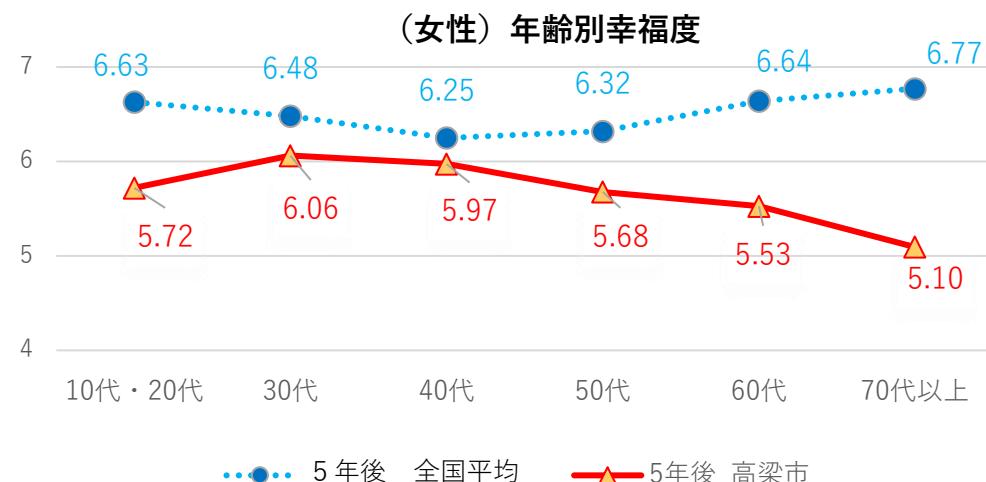
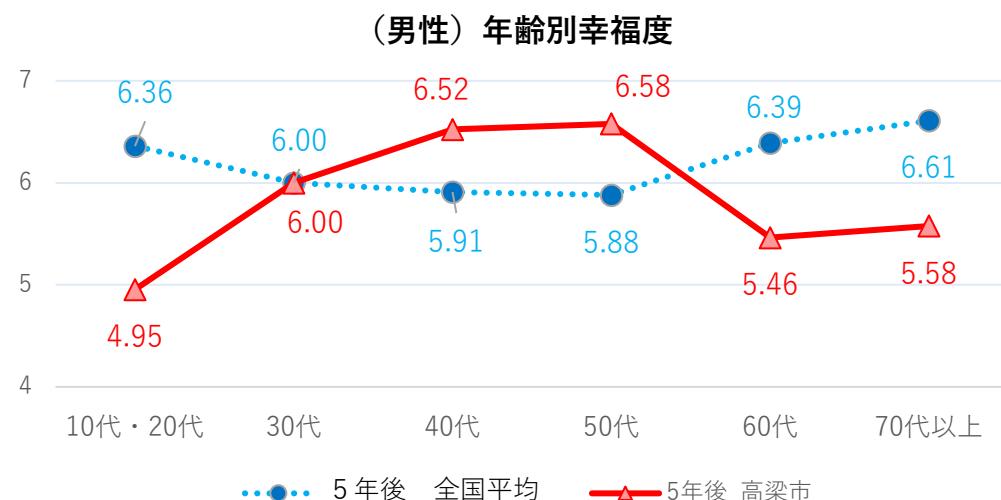
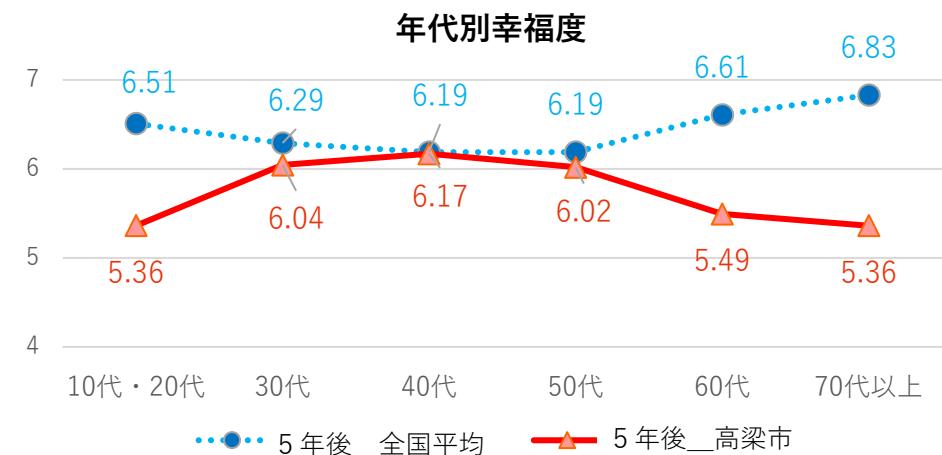
- ・全国平均 (6.40) に対して高梁市 (5.73)。

【2. 年代別の傾向】

- ・現在と同様に、20代が特に低水準/60代以上も全国より大きく下回る。

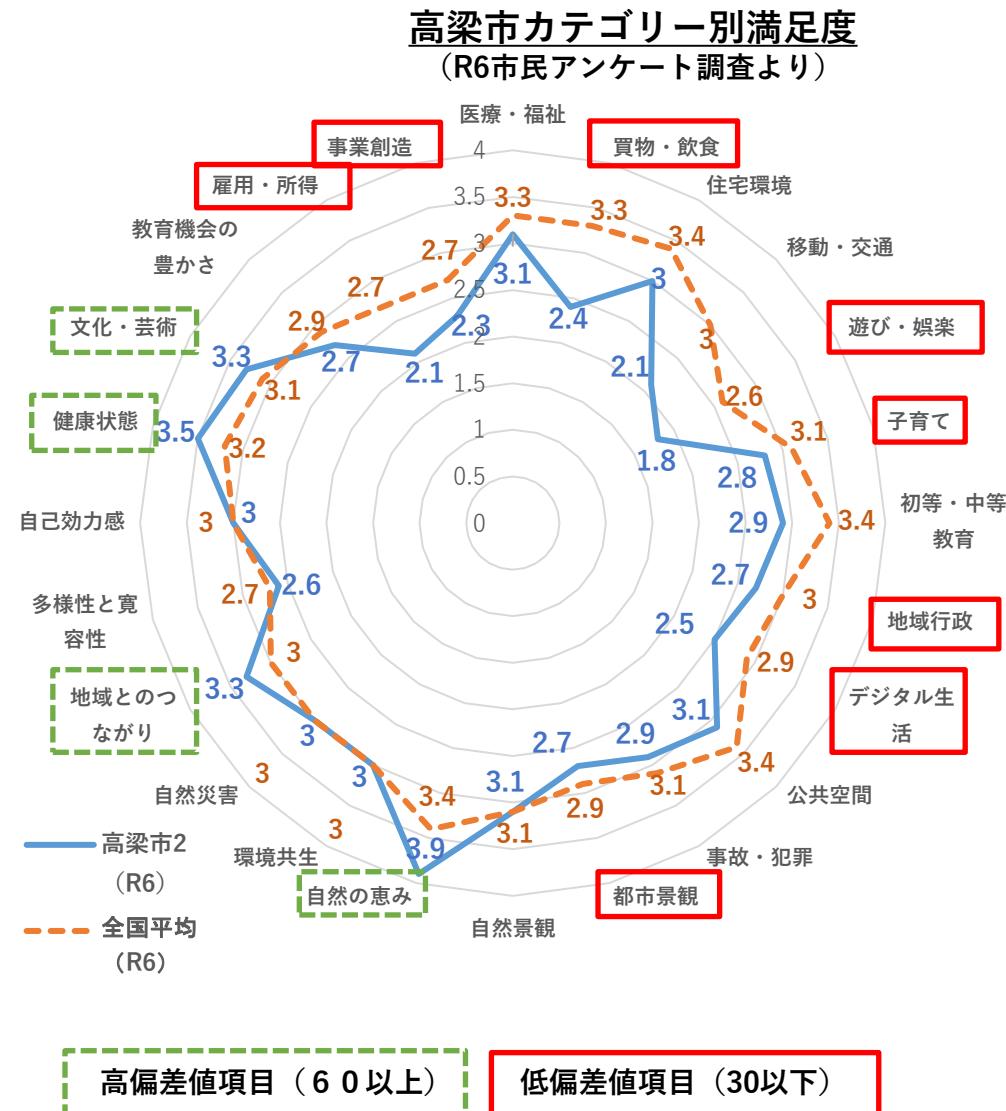
【3. 性別の傾向】

- (男性) 現在と同様に20代と60代以上が低い傾向。 (女性) 現在と同様に全年代の全国平均値を下回る。



(4) 幸福度に関連するカテゴリー項目別満足度 高梁市と全国の比較 (R6 市民アンケート調査結果より)

- ・ 幸福度に関連するカテゴリー別満足度の全国平均との比較を見ると、「地域との繋がり」「文化・芸術」「健康状態」「自然との恵み」等の項目が全国平均を大きく上まわっている（偏差値60以上項目）。
- ・ 反対に、特に満足度の低い項目（偏差値30以下）としては、「雇用・所得」「事業創造」「買物・飲食」「遊び・娯楽」「子育て」「地域行政」「デジタル生活」「都市景観」が上げられる。



○アンケート結果から

(1) 幸福度と相関傾向にある設問項目 《年代別まとめ》

年代	3因子	カテゴリ	項目
20代	自分らしい生き方	健康状態	私は、身体的に健康な状態である
		教育機会の豊かさ	私の暮らしている地域では、学びたいことを学べる機会がある
		雇用・所得	私の暮らしている地域では、適切な収入を得るための機会がある
	地域の人間関係	この町内（集落）には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	
		同じ町内に住む人たちを信頼している	
	生活環境	地域行政	暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である
		自然の恵み	暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる
30代	自分らしい生き方	自己効力感	自分のことを好ましく感じる
		健康状態	私は、精神的に健康な状態である
	地域の人間関係	暮らしている地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる	
		この町内（集落）には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	
		私は、町内（集落）の人が困っていたら手助けをする	
	生活環境	私は、この町内（集落）に対して愛着を持っている	
		私は、見知らぬ他者であっても信頼する	
		住宅環境	自宅には、心地のいい居場所がある
40-50代	自分らしい生き方	公共空間	私の暮らしている地域には、まちなか・公園・川沿い等で心地よく歩ける場所がある
		自然災害	私の暮らしている地域では、防災対策がしっかりしている
		自己効力感	私は、自分のことを好ましく感じる
		健康状態	私は、身体的に健康な状態である
	生活環境	教育機会の豊かさ	私は、精神的に健康な状態である
		文化・芸術	私の暮らしている地域では、学びたいことを学べる機会がある
	生活環境	将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい	
		医療・福祉	私の暮らしている地域では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい
		住宅環境	自宅には、心地のいい居場所がある
		地域行政	暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である
60代以上	自分らしい生き方	公共空間	暮らしている地域の雰囲気は、自分にとって心地よい
		自己効力感	自分のことを好ましく感じる
60代以上	地域の人間関係	私は、同じ町内（集落）に住む人たちを信頼している	

（2）幸福度と相関傾向にある項目 《20歳代》

全体	市民・有識者意見	考えられる施策の例
<p>【幸福度と相関傾向にある設問項目】</p> <p>《自分らしい生き方》</p> <p>○健康状態 ・身体的に健康な状態</p> <p>○教育機会 ・学びたいことを学べる機会</p> <p>○雇用・所得 ・適切な収入を得る機会</p> <p>《地域の人間関係》</p> <p>○地域とのつながり ・町内にどんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある ・町内の人を信頼している</p> <p>《生活環境》</p> <p>○地域行政 ・公共施設の利便性</p> <p>○自然の恵みとの関連 ・空気や水が澄んでいてきれいだと感じること</p> <p>20代において開かれた地域社会の形成、自然豊かな環境の維持、健康促進、公共施設の利便性確保、学びや就労機会の提供が幸福度向上のポイントと考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 若い人が仕事後の余暇などで集まる場所、遊べる場所がないので、そういう場所が必要。 仕事はあるが、やりたい仕事がなく、マッチしていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 若者の社会進出への理解醸成 若者への起業教育 リスクリキング教育 <ul style="list-style-type: none"> 若年世代が集まる場等若年世代同士をつなぐ環境づくり <p>など</p>

(2) 幸福度と相関傾向にある項目 《30歳代》

全体	市民・有識者意見	考えられる施策の例
<p>【幸福度と相関傾向にある設問項目】</p> <p>《自分らしい生き方》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己効力感 <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを好ましく感じる ○健康状態 <ul style="list-style-type: none"> ・私は、精神的に健康な状態である <p>《地域の人間関係》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域とのつながり <ul style="list-style-type: none"> ・地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる ・町内にどんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある ・町内の人々が困っていたら手助けをする ・町内に対して愛着を持っている ○多様性と寛容性 <ul style="list-style-type: none"> ・見知らぬ他者であっても信頼する <p>《生活環境》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○住宅環境 <ul style="list-style-type: none"> ・自宅には、心地のいい居場所がある ○自然景観 <ul style="list-style-type: none"> ・まちなか、公園、川沿い等で心地よく歩ける場所がある ○自然災害 <ul style="list-style-type: none"> ・防災対策がしっかりとっている <p>30代において地域社会の信頼と支え合い、多様性を受け入れる雰囲気、快適な住まいと安心できる自然環境、そして健康と自己肯定感の維持が、幸福度向上のポイントとなり得る。</p>	<p>市民・有識者意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の充実・男性の育児参加など母親の負担軽減 ・親世代同士が助けあえるコミュニティの充実 ・地域コミュニティとのつながりの充実 <p>・世帯向けのアパートがない。一回腰を据えて、家を建てる前のアパートが必要。</p> <p>・こども向けの公園に噴水があると集まる。</p> <p>・災害時に避難しやすいよう、道路の改良、施設利用手続きの簡素化を。</p> <p>・防災意識に温度差があるので啓発を。</p>

(2) 幸福度と相関傾向にある項目 《40~50歳代》

全体	市民・有識者意見	考えられる施策の例
<p>【幸福度と相関傾向にある設問項目】</p> <p>《自分らしい生き方》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己効力感 <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを好ましく感じる ○健康状態 <ul style="list-style-type: none"> ・身体的・精神的に健康な状態 ○文化・芸術 <ul style="list-style-type: none"> ・将来世代のために文化を残したい <p>《生活環境》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療・福祉 <ul style="list-style-type: none"> ・介護・福祉サービスの利用しやすさ ○住宅環境 <ul style="list-style-type: none"> ・自宅には、心地のいい居場所がある ○地域行政 <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の利便性 ○公共空間 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の雰囲気が心地よい <p>40-50代において快適な地域環境、精神的な安定、文化の継承意識、福祉や公共施設の充実が、世代全体の幸福度を高める可能性が示唆された。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健康診査の受診率は、特に40代、50代の若い世代が低い。健康意識の啓発が必要。 ・少子高齢化や子どもを取り巻く環境の変化で、伝統芸能の指導者と担い手が共に減少傾向。 ・空き家・空き地が増え、歴史的な町並みの町家が老朽化、歴史的景観にそぐわない建造物等も増。 ・コンパクトシティは大事。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健診（検診）受診など健康管理 ・定期的な運動 ・メンタルヘルス対策の充実 ・歴史的景観の保全 ・公共サービスの利用申請のデジタル化 ・公共空間の整備 <p>など</p>

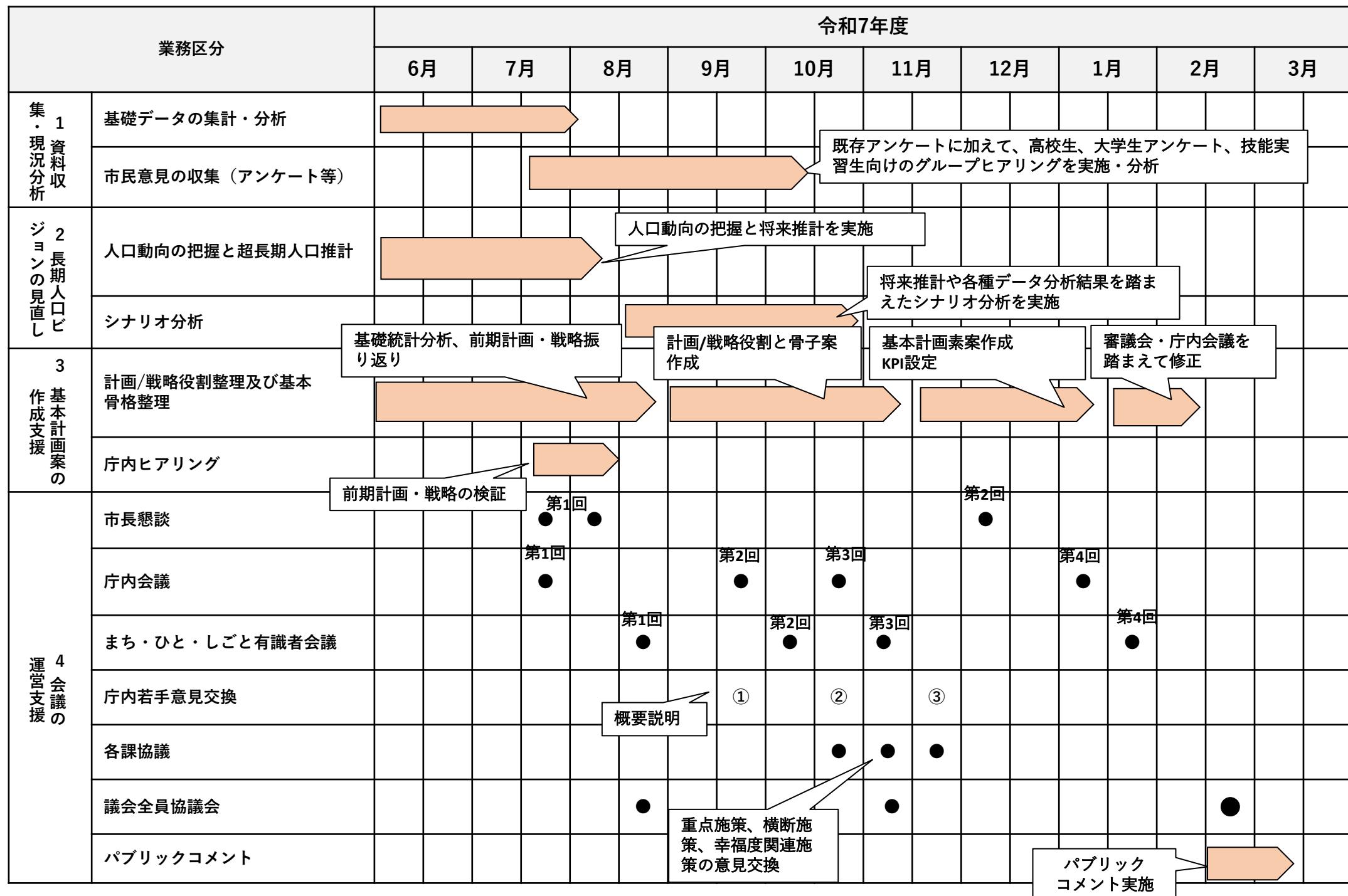
(2) 幸福度と相関傾向にある項目 《60歳代以上》

全体	市民・有識者意見	考えられる施策の例
<p>【幸福度と相関傾向にある設問項目】</p> <p>《自分らしい生き方》 <input type="radio"/>自己効力感 • 自分のことを好ましく感じる</p> <p>《地域の人間関係》 <input type="radio"/>地域とのつながり • 町内の人を信頼している</p> <p>60歳代以上においては、地域の人間関係、自己肯定感がポイントとして挙げられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人が活き活きと動いてもらうまちづくりをして、それを外部の人にも見てもらいたい ・高齢化や団体の担い手不足で、地域の文化・芸術諸団体の活動や存続に懸念。 ・他所から若い人に来てもらうことに力は入れないといけない。閉塞感がある。 ・町内会が維持できない。地域の担い手がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり・健康管理の充実 ・地域福祉活動や文化活動への参加 ・地域コミュニティとのつながりの充実 <p>など</p>

(2) 幸福度と相関傾向にある項目 《全年代共通》

全年代を通じて、「自己効力感（自分を好ましく感じる）」「精神的に健康である」といった設問が、幸福度との間に相関性のある項目として上がっており、自己効力感や心理的な健康状態は世代問わず幸福感の根底となる項目と考えられる。

3 全体スケジュール



4 アンケート調査・ヒアリング調査等実施予定

第3回有識者会議にて各種市民意見収集結果の報告を行うことを見据え、10月中に各種アンケート/ヒアリングを対応予定。

項目	調査予定	スケジュール
高校生 アンケート	<ul style="list-style-type: none">市内4校にてアンケートを実施済み地域への愛着度やその要素、将来的な高梁市への居住意向やそれに必要と考える要素等を把握するため集計・分析を実施	
大学生 アンケート	<ul style="list-style-type: none">将来的な就職希望の業種や地域、高梁市内の企業への就業意向や今後の関係人口としての関わりの可能性等を調査予定	<ul style="list-style-type: none">10月中に各種分析、次回庁内会議、有識者会議にて報告予定
外国人 ヒアリング	<ul style="list-style-type: none">市内の外国人を雇用する企業4社にてヒアリングを実施高梁市での暮らしの課題感や要望、地域活動の担い手としての可能性等を調査予定	

○ウェルビーイングの概要

■なぜウェルビーイングが求められるか？

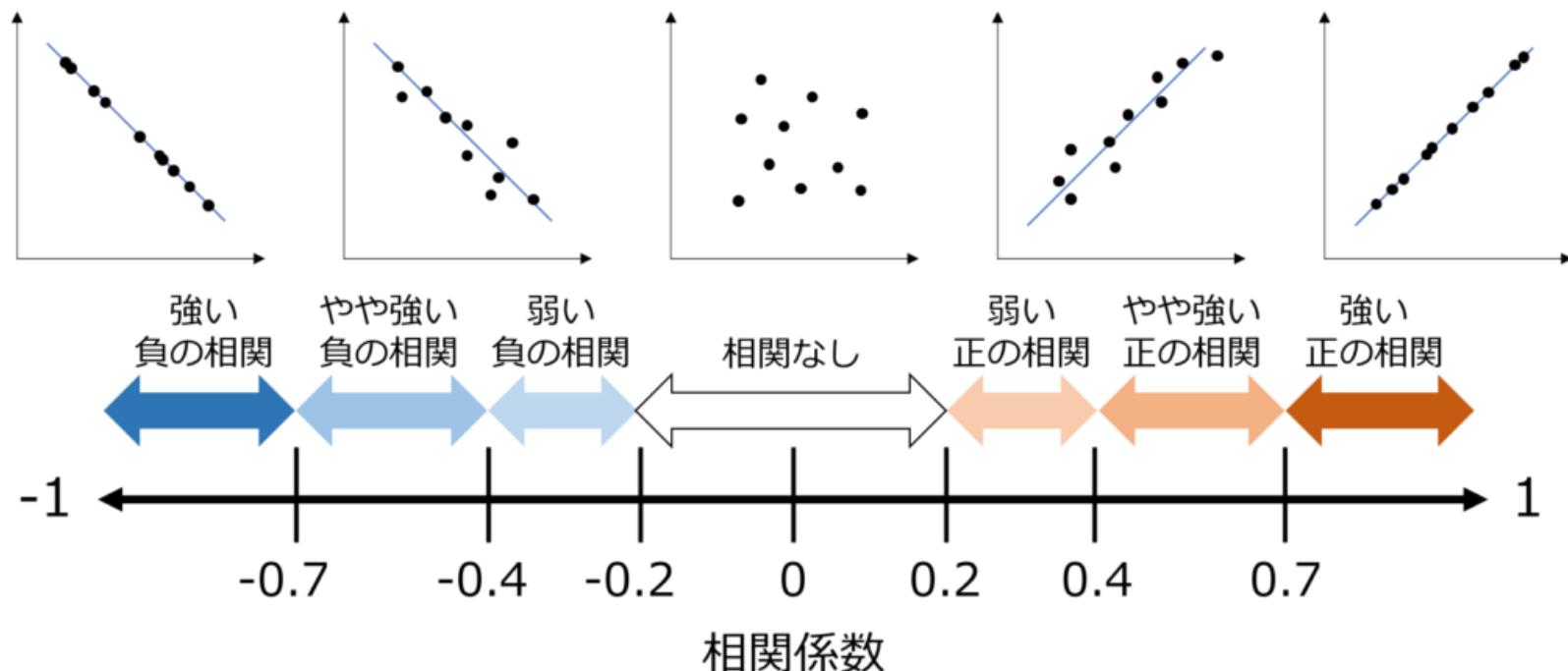
○ 経済先進諸国において、GDPに代表される経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを捉える考え方が重視されてきている。

○ OECD（経済協力開発機構）の「Learning Compass2030（学びの羅針盤2030）」では、個人と社会のウェルビーイングは「私たちが望む未来（Future We Want）」であり、社会のウェルビーイングが共通の「目的地」とされている。

○デジタル庁提示 3因子 24カテゴリーと市民アンケート調査での各設問

3因子/24カテゴリー	アンケート調査での設問
「生活への満足」関連項目	
医療・福祉	暮らしている地域は、医療機関が充実している 私の暮らしている地域では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい
買物・飲食	暮らしている地域は、日常の買い物にまったく不便がない 私の暮らしている地域では、飲食を楽しめる場所が充実している
住宅環境	自宅には、心地のいい居場所がある 私の暮らしている地域では、適度な費用で住居を確保できる
移動・交通	私の暮らしている地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる
遊び・娯楽	私の暮らしている地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある
子育て	私の暮らしている地域では、子育て支援・補助が手厚い 私の暮らしている地域では、子どもたちがいきいきと暮らせる
初等・中等教育	私の暮らしている地域では、教育環境（小中高校）が整っている 私の暮らしている地域では、通学しやすい場所に学校がある
地域行政	暮らしている地域の行政は、地域のことを真剣に考えていると思う 暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である
デジタル生活	私の暮らしている地域では、行政サービスのデジタル化が進んでいる 私の暮らしている地域では、仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい
公共空間	暮らしている地域の雰囲気は、自分にとって心地よい 私の暮らしている地域には、まちなみ、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある
都市景観	私の暮らしている地域には、自慢できる都市景観がある
自然景観	私の暮らしている地域には、自慢できる自然景観がある
自然の恵み	暮らしている地域では、身近に自然を感じることができる 暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる
環境共生	私の暮らしている地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである
自然災害	私の暮らしている地域では、防災対策がしっかりしている
事故・犯罪	私の暮らしている地域は、防犯対策（交番・街燈・防犯カメラ・住民の見守り等）が整っており、治安がよい 私の暮らしている地域では、歩道や信号が整備されていて安心である
「人々の幸せ（地域の人間関係）」関連項目	
地域とのつながり	私は、同じ町内（集落）に住む人たちを信頼している 私の暮らしている地域では、地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への市民参加が盛んである 暮らしている地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる 私は、町内（集落）の人が困っていたら手助けをする 私は、この町内（集落）に対して愛着を持っている
	この町内（集落）には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある 私は、見知らぬ他者であっても信頼する
	私は、町内（集落）の人が自分をどう思っているかが気になる 私の暮らしている地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある
	私の暮らしている地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある
「私の幸せ（自分らしい生き方）」関連項目	
自己効力感	自分のことを好ましく感じる
	私は、身体的に健康な状態である
	私は、精神的に健康な状態である
	暮らしている地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい 将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい
	私の暮らしている地域では、学びたいことを学べる機会がある
	私の暮らしている地域では、やりたい仕事を見つけやすい
	私の暮らしている地域では、適切な収入を得るための機会がある
雇用・所得	私の暮らしている地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある
事業創造	

相関イメージ図



■ 相関係数が高いときに言えること

- ・2つの変数がある時に、一方の変数が高まると、もう一方の変数も高まる関連性の高さ。
相関係数が高い = 「2変数が同様の傾向で変数が上下する」ことが統計的に確認できた状態。
- ・例えば、気温とアイスクリームの売上に「正の相関関係」が認められるなら、気温が高い日にアイスクリームの売上が高まると言える。

■ 幸福と3つの因子、および各カテゴリーとの相関関係を明らかにすることで、今後のウェルビーイング向上に向けて、どのカテゴリーに施策的に取り組むかの検討要素とすることができる。

- 性別・年齢別に幸福度と相関傾向にある項目（相関係数の高い項目）を抽出した。※詳細は別添整理表参照

《幸福度と相関傾向にある項目の一覧表イメージ（一部のみ提示）》

因子	設問	全体	年齢別				男性				女性			
			20代	30代	40-50代	60代以上	20代	30代	40-50代	60代以上	20代	30代	40-50代	60代以上
地域行政	行政は地域のことを真剣に考えている									○				
	公共施設は便利である		○		○				○	○			○	
デジタル生活	行政サービスのデジタル化が進んでいる									○			○	
	デジタルサービスを利用しやすい									○			○	
公共空間	地域の雰囲気は心地よい				○				○	○			○	
	心地よく歩ける場所がある		○					○	○	○		○		
都市景観	自慢できる都市景観がある								○	○				
自然景観	自慢できる自然景観がある						○							
自然の恵み	身近に自然を感じられる							●						
	空気や水がきれいだ	○												
環境共生	環境への取組みが盛んである													
自然災害	防災対策がしっかりしている		○											
事故・犯罪	防犯対策が整い治安がよい									○				
	歩道や信号が整備され安心である													

《凡例》※サンプル数35以上の場合

○：幸福度と弱から中程度の相関が認められる設問項目（相関係数 $r \geq 0.3$ ）

●：幸福度と中程度以上の相関が認められる設問項目（相関係数 $r \geq 0.5$ ）

《サンプル》

- 年代別：20代（47名）、30代（46名）、40-50代（109名）、60代以上（126名）
- 性別 × 年代別：20代男性（22名）30代男性（14名）40-50代男性（40名）60代以上男性（67名）20代女性（25名）30代女性（32名）、40-50代女性（69名）、60代以上女性（59名）
- 有意性の条件：統計的に有意とみなす基準は、偶然では説明できない程度に、適切な関連があるとみなせる基準（ $p < .05$ ）とした。有意でない結果は解釈の対象外とし、図表には反映していない。

■ 偏差値計算式

$$(偏差値) = \pm \frac{(\text{当該自治体の数値} - \text{平均値})}{(\text{標準偏差})} \times 10 + 50$$

(↑数値が高いほど悪い状態を表すKPIについてはマイナスを使用)

カテゴリー別偏差値のレーダーチャートはデジタル庁 一般社団法人スマートシティ・インスティテュートツールにより作成。

《補足2》 偏差値の値と割合の関係図

